

教育（その他）、教育施策以外のご意見

■ 教育（その他） ※資料2①・②に簡潔に記載している箇所（一部重複）あり

1 学校に関わる大人

（1）教員以外の職員

看護師・介護士など子ども達の多様性に対応した現場にするために、教員以外の職員の充実を望む。日本は福祉途上国。支援学級との垣根がなくなると良い。情緒障害で変化になじめない子も、小さいうちからなじめるような環境が欲しい。共生社会の実現のためにも、福祉の働き手の給与面の待遇を改善して欲しい。

（2）親・保護者

親・保護者がしっかりしなければならない。学校で道德教育は行っても、幼稚な意見を言う中学生がよくいる。親は自分で気づけず、子どもを尊重するだけでよいのかなと思う。親に対しての評価はないため、早い段階から、教育について親が考える機会が必要。学校だけに求めてはいけないと思う。

核家族化で、地域の大人と子どもが関わる機会が減り関係性が大きく変わった。地域の大人と子どもが放課後に安全な場所で、利用・交流できる機会をつくって欲しい。

（3）スクールカウンセラー

学校へのスクールカウンセラーの配置状況・法的位置づけの確認をしたうえで、子どものために適切な連携・対応を行ってほしい。

2 みはらしの丘地区の学区

上山市のみはらしの丘地区（70世帯）の子どもが、山形市の小中学校に通っている。上山市民として税金を納めているのだから上山の小学校に入りたい。学区選択制であれば、選択肢が広がるのではないかな。上山にいる子どもたちをなぜ上山に入れないのかが疑問。中学校は、遠くてかわいそうだし、帰路は坂道でつらい。もう一度住民から意見を聴いてほしい。

3 公的施設・公共機能

（1）公民館

せっかくの施設なので、子どもがいつでも行けるような公民館となって欲しい。親が判断するような部分がある。子どもが判断して参加できるような場であってほしい。

（2）コミュニティスクール

コミュニティスクールが充実すると良いと思う。放課後利用できる安全な場所で地域の方と触れ合える場所をぜひお願いしたい。

(3) 公的施設の併設

新しい学校を建設する場合、中央公民館・コミュニティセンターや、シルバー人材センター、図書館等地域とのつながりの拠点を一緒に併設するのが良い。どこの子ども会・地区会も活動が困難になっている。

(4) 学校施設の開放

体育館等の学校施設の貸し出しについて、保護者が代表者としてやるならよいと中学校から言われたことがあるが、学校によって貸してくれるところと貸してくれないところがある。平等に貸し出してほしい。

4 通学方法、スクールバスの運用

小さな学校だけではなく、大きな学校でも通学の心配は様々なものがある。また、山間地域特有で、野生動物（熊、いのしし、猿）などの問題もあり、子どもが猿に囲われたこともあった。最近では物騒で、凶悪犯もニュースに出ている。スクールバスの利用の可否は、単に距離だけでは判断しないほしい。

スクールバスを市民も利用できないか。他市町村で子どもの通学バスに一般住民も乗っていると聞いたことがあるので、行政として出来る方法を考えて欲しい。

■ 教育施策以外

1 子育て支援策

(1) 子育て支援策の広報周知

現在の子育て支援事業は「めんごりあ」をはじめ、他市町村と比べても見劣りせず、もっと誇って良い。対外的に広報周知を充実した方が良いと思う。

(2) 子育て支援施設

小児科がないとか、病児保育所の数・定員が少ないなど、市で出来ることはまだまだある。遊べる場所も少ない。

(3) 金銭給付支援

子どもをたくさんほしくても、お金がかかる。ぜひ、子育て支援について金銭面での支援をお願いしたい。子育て世帯に月数万円の支給等をして欲しい。

(4) 子どもの人権

子ども一人ひとりに人権がある事を子ども自身が分かっているか、その事を保育・教育過程でどのように伝え、自分の権利を学ぶことができているのかなと思った。

2 人口減少対策

(1) 人口増加策・検討体制

人口減少対策に消極的に感じる。広い視点で見たときに上山の人口を増やさなければならない。減少ありきではなく人口を増やせる魅力ある上山づくりをしていくことを市全体で考える必要がある。住みたいと思う人を増やしていく取組をお願いする。

共創空間として、地域・市民が学校を使うことを考えると、教育委員会だけでなく市全体で考えるべき。人口が流出しない、減少要因を減らすための取組が一番。既に取組をしているにしても、市民が認知するための広報周知は必要。

(2) 住宅地・立地支援

移住者であり、上山は良い条件がたくさんあるが、居住地の選択肢が少ない。新興住宅地があるので、南小学区はこれから子育て世代が増えることも考えられるが、北側の上小学区は難しいと思う。できれば、郊外でも実家の近くに住んで、家族の支援や面倒を見たいが難しいので街なかに住んでいる。まとまった住宅地があると良い。

山形市と置賜の中間地にあることなどメリットもあるのだから、分譲策として様々考える必要がある。廃校跡地を宅地にして、かつ家庭菜園ができる宅地をセットにすればいい。移住者も増えると思う。

(3) 減税など金銭面の支援

給料明細をみても税金が多く控除される。若者にとって魅力的な面が上山には少ない。支援策として所得税・住民税を下げるくらいでないと人が来ないと思う。昨年度、タウンミーティングで天童市の支給施策の事を話したが、ばらまくのは簡単だと言われた。人口減少対策のレベルが低い。住宅補助金額も他市より低いと思う。

(4) 若者への魅力、若者支援

成人した子どもと話すと、異性に会える場所がなく仕事と家の往復で、就職したら山形市で暮らして良いかをきかれる。教育施策より人を集めることが大事だと思う。コロナ以降、人と関わるのが少なくなり、結婚する人も減少した。市内に就職したら、奨学金返還を半分免除等の施策を考えたら良いのではないかな。

(5) 企業誘致・雇用創出

若い人が勤めたい企業を誘致して1人でも2人でも人口を増やして欲しい。

(6) 地区会支援

人口減少は、学校の統廃合だけでなく地区会にも影響が大きい。10～40年内には地区会自体が消滅する地区が出てくる。そこについても市としてケアをしてほしい。

3 市の魅力・取組

(1) イベントの減少

かかし祭りもなくなり寂しい。イベント等は、まずは、大人・先生方がスマイルプロジェクト等を経験・理解していない。郷土愛を育てたいのであれば、大人・先生方にもスマイルプロジェクトや上山の事を知ってほしいと思う。

(2) 施設の減少

上山明新館高校も児童生徒数が減少し大変な状況。上山市に魅力がなければ人は寄ってこない。旅館、競馬場など、昔あったものがなくなったし、郊外の体育施設も縮小となる。どうやって人が集まる施設をつくっていくかを考えなければならない。

(3) SDG s

SDG s について、上山でどういう取組を行っているか分からず、子どもに聞かれても教えられない。分かりやすい広報・周知をお願いしたい。

(4) ウェルビーイング

笑顔元気で生活できる「ウェルビーイング」、「子どもは何に幸せを感じるのか」、を考えた際、PTA 全国大会で「親の幸せが自分の幸せと考える」と聴いてきた。大人が幸せになる上山にする必要がある。そうでないと子どもが幸せになることが難しい。

4 避難所機能

人がいない廃校・休校施設を震災時に、いざ避難所にしようとしても無理がある。しかし、能登地震の際は、学校で避難者が長期に避難生活を送る一方で、通常の授業で使用していたスペースが使えず、学校運営や授業が成り立たないといったことがあった。それを考えると学校を避難所として指定していることは良いのだろうかと思う。学校とは別の避難所が必要だと思う。